市民協働・交流の拠点！

アオーレ長岡

シティホール
プラザ

City Hall Plaza Aôre Nagaoka

〝長岡モデル〟全国に発信！

ユニークな取組みがここに満載

アオーレ長岡5つの理念

City Hall Plaza Aôre Nagaoka

City Hall Plaza Aôre Nagaoka

26万市民の心のよりどころ

- 協働・交流の拠点
- 長　岡　の　顔
- ハ　レ　の　場
- 合　併　の　象　徴
- まちなかに溶け込む市役所

アオーレ宣言

アオーレ長岡は本日、待望のオープンの日を迎えました。

いつの時代も市民が集い、長岡の「顔」であったこの地に、長岡の伝統である市民協働・市民交流の拠点が、装いも新たに誕生しました。

屋根付き広場「ナカドマ」を中心に、アリーナ、市民交流スペース、市役所、議会などの機能が渾然一体に溶け合う、全く新しいコンセプトを形にした公共建築・アオーレ長岡は、市民の創造性を刺激する、かつてないコミュニケーション空間です。

限りない可能性を秘めたこの空間を、市民が楽しみながら自由な発想で使いこなしていくことによって、アオーレ長岡は限りなく成長していくことでしょう。

さまざまな人々が立場を超えて交流し、絆を強めていくことで、合併した長岡市の一体感はよりいっそう深まります。アオーレ長岡が心のよりどころとしていつまでも愛され、市民の誇りであり続けることを確信しております。

皆さん、アオーレ長岡は未来に向かって、今日から歩み始めます。皆さんの知恵と行動力とで、大きく育てていきましょう。

平成24年4月1日　　長岡市長

アオーレ長岡の施設概要

City Hall Plaza Aôre Nagaoka

「アオーレ長岡」は、JR長岡駅前の旧長岡市厚生会館及び周辺の公園等を含めた約1.5haの区域に、厚生会館機能を受け継ぐ“アリーナ”、冬季でも様々な活動ができる“ナカドマ（屋根付き広場）”、“市役所本庁機能”を一体的に配置した複合施設です。

約35，000㎡の延床面積の半分以上が市民交流のスペース!!

まちなか型公共サービスの核となる施設として、周辺施設との連携と波及効果が期待される「市民協働・交流の拠点」です。

【基本コンセプト】

まちに開けた“中土間（ナカドマ）”

庭のようでも部屋のようでもあるナカドマ（屋根付き広場）は、建物中央に挟み込まれるように配置しています。誰もが気軽に立ち寄り、活動できる空間です。

公と民のモザイク

行政と市民の活動が、市松模様のように交ざり合ったデザインです。市民の皆さんが活動するすぐそばで市役所の業務が行われ、議会が開催されます。市松模様は壁面や大屋根のパターンとしても表現されています。

「アオーレ長岡」は、木の質感を生かしたデザインが特徴的です。

設計者の隈研吾さんは「木そのものが持つ良さを感じてほしい」と木にこだわり、内装外装ともに木製のパネルは地場産の杉の間伐材を使用しました。家具や壁紙には、市内で生産している栃尾紬や小国和紙を取り入れるなど、暮らしの温もりを大切にしています。また、アリーナ内の木パネルには、旧厚生会館の緞帳（どんちょう）やフローリング材を再利用しています。

アオーレ長岡の施設紹介

City Hall Plaza Aôre Nagaoka

議場

●市民と議会の一体感を醸成するため、一階に議場を配置!
大勢の市民が集まるナカドマに面しています。
●親子傍聴席を設置するなど傍聴環境の充実はもちろん
インターネット配信やケーブルテレビ中継、
FMラジオによる議会放送も行われます。
●活発な議論を目指し、形状は全体が見渡せる
「円形すり鉢状」の議場です。演壇の向かいに質問席を設置し、
より活発で深い議論を促す議場となっています。

ナカドマ(屋根付き広場)

●3つの建物に囲まれたアオーレ長岡の中心で、集い、
語り合い、様々な活動ができる自由空間です。
●屋根が付いているので、天気を気にせず、利用ができる全天候型の巨大空間です。
●誰もが気軽に立ち寄り、憩い集うことができる24時間
開放のスペースです。
●移動販売車や屋台などの出店も可能です。
●物産展、展示会、結婚式など自由な発想で使用が
可能な「ハレの場」です。

福祉のカフェりらん

●県内初!行政施設内の福祉カフェです。
●市内6つの障害者施設と高等総合支援学校が
連携し、日替わりで運営しています。
●営業時間は、平日お昼時。
●各施設で製造したパンやお菓子、飲み物を販
売しています。
●スタッフの笑顔で、いつも明るい雰囲気に包
まれています。

市民交流ホールA

●各種発表会や演奏会に最適です。
●電動式の可動席で会場設営もラクラクです。
●ダンスやレクリエーションにも使用できるフロー
リング仕様です。

総合窓口

●相談、証明発行などの手続きに合わせ、ワンストップでのサービスを提供。複数の手続きも、市民
は動かず担当職員が入れ替わりで対応します。
●土・日・祝日も窓口を開設しています。
●市民に身近な窓口サービスを1階フロアに集約した「総合窓口」を開設。『市民により便利な市
役所』を実現します。
●市役所業務を幅広く紹介し案内する“市役所コンシェルジュ”、お困りのお客様をサポートする
“案内誘導員”を配置し、訪れる方を“おもてなしの心”でお出迎えします。

アリーナ

●大開口扉を開けば、ナカドマとの一体
的な利用が可能です。
●各種イベント、スポーツ、コンベンション
など多目的に利用できる空間です。
●可動席や仮設ステージを利用すること
でレイアウトも自由自在です。

凡例

- ナカドマ
- アリーナ
- 市民活動スペース
- 3階回遊テラス
- 市役所(行政・議会)
- 駐車場
- バックヤード
- トイレ
- 多目的トイレ
- 授乳室
- エレベーター
- エスカレーター

アオーレ長岡の施設紹介

City Hall Plaza Aôre Nagaoka

回遊テラス

●東棟・西棟・アリーナをつなぎ、24時間通行が可能です。

オープンテラス

●パラソル付きのテーブルは、待ち合わせや訪れた方の休憩スペースとして利用されています。
●自然の光を堪能できるおしゃれ空間です。
●ランチタイムにはリコーダーなどのミニコンサートが行われることもあり、和やかな時が流れています。

市民協働センター

●市民活動を支えるために、NPO法人市民協働ネットワーク長岡と長岡市が協働で運営。様々な市民活動を強力にサポートします。
●コーディネーターが常駐し、多様な相談に対応するとともに、市民活動や地域の情報を受発信します。

利用の受付・予約・案内もこちらで

●市民利用スペースの受付・予約・案内は、アオーレ長岡を運営するNPO法人ながおか未来創造ネットワークが行います。
●「より自由に、より使いやすく」。利用する方々をサポートします。

市民交流ホールB・C・D

●サークル活動、ダンス等の軽スポーツ、講演会など多用途に対応しています。
●回遊テラスに面したガラス張りのホールです。
●交流ホールB・Cは、移動間仕切りを開放すれば一体利用も可能です。
●ホールB・Cの床はフローリング ／ ホールDはカーペット仕様です。

市民交流ホール B・C

市民交流ホール D

JR長岡駅とアオーレ長岡を結ぶ大手スカイデッキ

●雨や雪の日でも駅から濡れることなくアオーレ長岡へ訪れることができます。
●新幹線の改札から直結。冬季でも足元を気にせずに快適においでいただけます。

施設諸元

構造	鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造
規模	地上4階、地下1階 (最高高さ 21.4m)
敷地面積	14,938.81㎡
建築面積	12,066.08㎡
延床面積	35,485.08㎡ 東棟：9,861.09㎡ 西棟：6,135.04㎡ アリーナ：7,734.43㎡ ナカドマ、外構等：7,000.03㎡ 駐車場：4,648.98㎡ 駐輪場：105.53㎡

※四捨五入の関係上、床面積の合計は延べ床面積と合いません。

ナカドマ

面積	約2,250㎡
天井高	5.8m～16.0m
床仕上げ	強度／11t車対応(積載後荷重25t)、色調／土間調、性能／排水性舗装
設備	キャットウォーク、吊フック(35ケ所:1ケ所1t)、ヒューズコック(9ケ所×5口)、散水栓(4ケ所)、集水桝(7ケ所)、都市ガス・プロパンガス(消費可能な熱量の計算は30万Kcal以下)、CATV・LAN設備取出口、イベント電源盤(2ケ所)、ビデオカメラ中継用接続口、音響設備(ポータブルPAシステム一式)
主な備品	仮設ステージ一式、長机、折りたたみ椅子、展示パネル、高所作業台

アリーナ

面積	2,123㎡(有効60m×34m)
観客席	2階…955席　3階…1,217席　1階ロールバック席…780席 可動席…770席
床仕上げ	素材／長尺塩ビシート、鋼性乾式二重床、床荷重／5t/㎡以下
搬入口	南側搬入口(幅6.2m×高さ4.0m)、ナカドマ大開口部(幅18.5m×高さ4.7m)から搬入可能(養生敷き必要)
天井高	12.5m
照明	メイン照明／高輝度放電灯(メタルハライド)・LED灯平均照度2,200ルクス、可動スポットライト一式、照明操作卓
放送	天井スピーカー25台　スタンド席用スピーカー36台
舞台	電動昇降式道具バトン2台　照明用バトン3台
音響	音響調整卓(移動式)、ワイヤレスマイクシステム一式
設備	キャットウォーク、吊フック(75ケ所／1ケ所2t)、フロア四隅壁面に電源、通信、CATV、給排水ビット設置(LAN設備、給水接続継手、排水目皿)、プロパンガス4ケ所、都市ガス2ケ所
付帯施設	多目的室3室、会議室3室、更衣室2室、控室4室、技術室1室
主な備品	仮設ステージ一式、長机、折りたたみ椅子、展示パネル
使用用途	バスケットボール、格闘技などスポーツイベント、コンサート、ライブ、ステージショー、展示会、大型見本市、式典や大規模集会、セミナーほか
スポーツ利用	バスケットボール3面、バレーボール4面、テニス3面、バドミントン14面、卓球台16台、フットサル1面

市民交流ホールA

面積	314㎡
天井高	4.8m
床仕上げ	フローリング
壁仕上げ	吸音ボード
搬入口	幅3m、高さ2.4m
音響	音響調整卓(ワイヤレスマイクシステム一式、BDデッキ、映写装置)
舞台	ホリゾント幕兼スクリーン、照明バトン、電動道具バトン
照明	アッパーホリゾントライト、フロントサイドスポットライト、ピンスポットライト
設備・備品	電動可動席(153席)、仮設ステージ一式、グランドピアノ、展示パネル、プロジェクター、長机、スタッキングチェア、講演台
付帯施設	楽屋2室、楽屋トイレ

市民交流ホールB・C・D

面積	ホールB…210㎡　ホールC…162㎡　ホールD…110㎡ ※B・Cは移動間仕切りの収納により一体利用可
天井高	2.7m
床仕上げ	ホールB・C…フローリング　ホールD…カーペット
主な備品	長机、椅子、プロジェクター、スクリーン、展示パネル、キャスター付スポーツミラー、演台、音響設備一式、畳

シアター

座席数	49席(段床形式・スタッキングチェア含む)、車椅子スペースあり
スクリーン	240インチ(約5.3m×3.0m)
音響	5.1chサラウンド

省CO_2技術の導入による環境配慮

City Hall Plaza Aôre Nagaoka

屋上緑化

●ヒートアイランド防止のため緑地空間を整備
緑化による環境意識の向上を図ります。

太陽光発電・換気システム

●ナカドマガラス屋根に太陽光発電パネルを設置し、発電と通風に応じて開閉します。
●定格出力は10kw。

中水循環型融雪システム

●雨水を回収・ろ過して、トイレ洗浄等に活用する他、冬季は融雪用水として循環活用します。
●夏季は貯留した雨水を打ち水散水し、施設内の冷却効果を図ります。

省CO_2情報の発信(見える化)

●西棟1階ホワイエに設置したタッチパネル式ディスプレイで、電力や熱の利用状況発電状況をデータで表示します。
●CO_2削減量を各システムの導入効果として算出します。

～IDO（タッチパネル式ディスプレイ）～

コージェネレーションシステム

●地場産の天然ガスを活用した地産地消の取組です。
●天然ガスを用いて電気と熱を作り建物内に供給します。
●ガスエンジンコージェネレーション350kw×1基。

導入効果　一般家庭220世帯分に相当する、年間約1,050tのCO_2を削減

複合施設の一体的維持管理

中心市街地に立地し、用途、供用時間が異なる大規模複合施設を安全・快適・経済的に管理するために、一括して管理業務を委託しています。管理事業者には、「統括管理者」が配置され、「建築・設備管理」、「清掃」、「保安警備」、「除雪」、「植栽管理」などの業務をマネジメントし、効率的・効果的な施設管理を行っています。

防犯・セキュリティ対策

アオーレ長岡は、空間ごとに供用時間が異なります。事故の防止と安全を確保するために、警備員が24時間常駐し、警備を行います。また施設各所に防犯カメラを設置するほか、侵入感知センサーや、侵入防止用扉を設置しています。また、各所に電気錠を設け、施錠状況の確認や施錠・開錠操作を遠隔集中管理しています。

市役所移転の背景とまちなか配置

City Hall Plaza Aôre Nagaoka

全国初まちなか型市役所の実現

長岡市の旧本庁舎は様々な課題を抱え、移転の必要性がありました。

①平成16年に発生した新潟県中越大震災での被災

⇒ 防災拠点に必要な耐震性が大幅に不足していることを再認識

②3度の市町村合併を受け、本庁組織を7カ所に分散

⇒ 市民にとっても職員にとっても不便な状況

これまでの市役所の本庁機能を、まちなかの数か所に集約配置し、
多くの市民が集まりやすく利用しやすい市役所を目指しました。
アオーレ長岡を核とした“ひとの和と輪が広がる” 新しい市役所＝まちなかに溶け込む市役所です。
※旧本庁舎は、耐震補強工事を施し、教育と健康の拠点「さいわいプラザ」として利用しています。

～ 市役所機能をあえて分散配置 ～

＊ ついで効果による回遊性やまちなかの賑わい創出
＊ まちに溶け込んだ「市民と協働する開かれた市役所」スタイルの確立
＊ 交通の拡散によるスムーズな流れ

アオーレ長岡の運営

～利用する市民が運営・行政は下支え～

City Hall Plaza Aôre Nagaoka

ルールを作らない自由度の高い運営

「安く、長く、自由に、飲食も、販売も」市民目線での運営

NPO法人ながおか未来創造ネットワーク（CINA）

独自事業

- 自主企画イベント実施
- ナカドマの雰囲気づくり
- イベントの開催支援・相談
- 中心市街地活性化
- 施設の貸館事業

NPO法人市民協働ネットワーク（協働ネット）

独自事業

- 相談業務・活動支援
- 情報コミュニケーション事業
- ファンドレイジング事業
- 人材ネットワーク事業
- プレイガイド業務

共通事業

- 広報・PR
- 団体の事務局支援

指定管理者制度ではなく市の直営でもない、それが“アオーレモデル”

●利用する市民の視点に立ち、より自由度の高い運営を実現するために組織されました。
　役員や運営スタッフも市民を中心としたメンバーで構成されています。

●市民が知恵やアイデアをしぼり、多くの意見を取り入れ、時には共に汗をかく運営スタイルです。

●行政は、安定した運営ができるように、下支えとしてサポートします。

◆市民が使いやすい使用料と利用時間

●「ナカドマ」「市民交流ホール」「ホワイエ」「シアター」の使用料は無料です。（一般利用の場合）

●施設の開館時間は、午前8時から午後10時まで。ただし、ナカドマや回遊テラスは、24時間開放となります。

●年末年始（12月29日から1月3日）を除き、1年中利用できる施設です。

長岡にいきづく「市民協働」

City Hall Plaza Aôre Nagaoka

城内に町民の祭り屋台が入り、共に楽しんだという「武士（公）」「町民（民）」の垣根の低さを物語るものです。
蒼柴神社が所蔵する絵巻物「蔵王権現祭禮御覧之図」の複製は、議場ロビーに展示されています。

市民協働が生きる長岡の歴史

長岡は、1868年の5月と7月、戊辰戦争によって、城と町は焼失、犠牲者も多く出しました。そのようななかから、人材育成を目指す「米百俵の精神」と、士民が協力して町を復興しようとする「不死鳥の精神」が生まれます。

日本の近代化に貢献した宝田石油会社から長岡市に寄付された宝田公園は、市民のための都市公園となりました。そのなかに、市民の文化の殿堂である公会堂が建ち、新しいシンボルとなり、後に公会堂は厚生会館へと建てかえられ、市民の体育・産業・文化の興隆に役立ちました。この場所は、長岡の激動の市民史を記憶しているところといえます。

2012年4月、市民協働の拠点シティホールプラザ「アオーレ長岡」が誕生し、市民の交流と時代の駅となって、長岡の未来につなぎます。

～長岡市厚生会館～

長岡の歴史

1868(慶応 4)年	戊辰戦争で町を焼く
1870(明治 3)年	米百俵の故事が起こる
1921(大正10)年	宝田公園ができる
1926(大正15)年	長岡市公会堂ができる
1945(昭和20)年	長岡空襲をうける
1958(昭和33)年	長岡市厚生会館ができる
2004(平成16)年	新潟県中越大震災
2012(平成24)年	アオーレ長岡誕生

～米百俵の故事を示す群像～

長岡花火は世界平和へのメッセージ

長岡まつり大花火大会は、戦災殉難者への慰霊と世界平和への祈り、そして震災からの復興への強い想いを込めて打ち上げている日本で唯一の花火大会です。

～復興祈願花火フェニックス～

「長岡まつり大花火大会」は、毎年、8月2日･3日に開催。
大河･信濃川を舞台に約2万発の花火が打ち上げられます。

シアター

- 長岡花火や観光情報を紹介します。
- 240インチスクリーンで迫力の映像を体感できます。
- 少人数の発表会やプレゼンテーションの場としても使用可能です。

アオーレ長岡について語る

City Hall Plaza Aôre Nagaoka

photo©J.C.Carbonne

建築家

隈　研吾

Kengo Kuma

©Tamotsu Fujii

アートディレクター
（施設サインのグラフィックデザイン担当）

森本　千絵

Chie Morimoto

20世紀の公共建築は、都市の成長、規模の拡大に応じて、郊外へ移動し、駐車場の中の孤立したコンクリートの箱となる傾向がありました。アオーレ長岡では、この時代の流れを反転させようと試みました。郊外にあった市役所を、町の中心へと戻し、環境時代のコンパクト・シティにふさわしい、歩いていける都心型で、市民生活と一体化した市役所、まさに本来のヨーロッパの町がつちかってきたシティホールの名にふさわしい町の生活の「中心の場」の復活を目指しました。
昔ながらのタタキの手法で仕上げられ、市民のコミュニケーションの中心となる「中土間」はコンクリートの箱にかわって、木と太陽光パネルで仕上げられた、やわらかい建築でやさしく囲われています。

アオーレ長岡からアオーレバードがうまれました。

地域から地域へ。
人から人へ。
みなさんの想いをのせながら飛んでいきます。

みなさんがいつでもここで出会えるように。
そしていつまでも夢をみれるように。

このアオーレバードがみなさんとまちをつなぐ幸せの象徴となり、
あらたな物語がはじまります。

アオーレ長岡の詳しい情報はこちら

ホームページ　フェイスブック　ガイドブック

バスケによる市民協働のまちづくりを展開!

City Hall Plaza Aôre Nagaoka

アオーレ長岡がホームアリーナに

平成28年９月、新たに開幕した男子プロバスケットボールリーグ「Bリーグ」。新潟アルビレックスBBはアオーレ長岡をホームアリーナとして、1部参入を果たし、長岡市をホームタウンとする初めてのプロチームが誕生しました。

バスケによる市民協働のまちづくり包括連携協定を締結

平成28年９月13日、長岡市、株式会社新潟プロバスケットボール、長岡地区NIIGATA　ALBIREX後援会、公益財団法人長岡市スポーツ協会の４者が、包括連携協定を締結し、「バスケットボールを核としたスポーツによる市民協働のまちづくり」を目指しています。

バスケによるまちづくり

長岡市は、ホームアリーナに選ばれたことを契機として「バスケによるまちづくり」を進めています。

バスケの魅力を発信するためのガイドブック「バスケの楽しみ方」の発行や、アオーレ長岡や大手通周辺に施した「アルビレックスBBの装飾」、バスケを身近なスポーツとして感じてもらうため、市民防災公園に「3x3（スリーエックススリー）」バスケットコートを設置しています。

新潟アルビレックスBBは、選手が様々な地域イベント活動に参加し、市民との交流を図っています。さらに、市内の保育園、幼稚園を訪問し、プレーの楽しさを広めるふれあいバスケットボール教室を開催しています。

長岡市はこれらの活動を通じ、新潟アルビレックスBB×市民×企業×行政が一体となった「オール長岡」体制で、市域全体の機運醸成や活性化、プロモーション、そして子どもたちの夢を応援しています。

市のプロフィール

人　口	263,198人
世帯数	109,158世帯（令和4年3月1日現在 住民基本台帳登録数）
面　積	890.91㎢
市の木	ケヤキ
市の花	ツツジ
市の魚	錦鯉

アクセス

■高速道路

東京	245km 約2時間30分	長岡
大阪	532km 約6時間40分	長岡
金沢（西）	243km 約3時間	長岡
新潟	57km 約40分	長岡

■JR

東京	新幹線 約1時間30分	長岡
大阪	特急利用 約5時間40分	長岡
金沢	新幹線・特急利用 約2時間15分	長岡
新潟	新幹線 約25分	長岡

■新潟空港

大阪	伊丹空港 約70分	新潟
名古屋	小牧・中部国際空港 約55分	新潟

■佐渡汽船

新潟	ジェットホイル 約1時間	両津
新潟	カーフェリー 約2時間30分	両津

アオーレ長岡は、市民協働・交流の拠点です。

シティホールプラザ
アオーレ長岡

『アオーレ』って・・・、

長岡地域で「会いましょう」を意味する方言。様々な人と人、人とモノの出会いがうまれるという期待が込められています。命名者は、小学5年生の女の子です。

連絡先

長岡市市民協働推進部 市民協働課

長岡市大手通1丁目4番地10　シティホールプラザアオーレ長岡内

TEL.0258-39-2288　FAX.0258-39-2308